

お医者さんって強姦魔？

心理学助教授 佐方 哲彦

ことばというのは面白い。たとえば、ワープロの変換間違いは案外楽しいものであり、変に言い得て妙だと思ってニヤツとしたり、示唆に富んでいるなど感心したりすることがよくある。日本語ワープロで英文を作成しているときの単語の途中改行やスペルミスなども、こうしたことばの面白さを体験できる機会の1つである。最近のワープロソフトはちょっと賢くなり過ぎて、あまり楽しめなくなった嫌はあるが…。

さて、そんな一例を紹介してみよう。医者英語でいうと、最も一般的には **doctor** であり、内科医を **physician**、外科医を **surgeon** ということくらいは君たちも常識として知っていると思う。では、専門的な治療を行う医者のことを何と呼ぶのか知っているだろうか。正解は **therapist** である。必ずしも医者だけを意味するわけではないが、辞書でセラピストを引けばちゃんと「医師」の訳語が挙げられている。**treatment** と同じく治療を意味するセラピー **therapy** という単語は、連結形として薬物療法 **pharmacotherapy**、心理療法 **psychotherapy**、放射線療法 **radiotherapy**、免疫療法 **immunotherapy** などのように専門的な治療を指して使うことが多く、それを臨床の場で実践している専門家のことをそう呼ぶのである。正式には **therapeutist** であったが、今では短縮形の **therapist** のほうが一般化して使われている。

この **therapist** は、ことばって面白いと思わせる単語の1つといえよう。ちょっと間違っただけで、とんでもない意味になってしまうのである。よく見て欲しい。そう、下手にスペースを入れて分割すると **the rapist**、丁寧に定冠詞のついた強姦魔になるのである。しかし、それがまた言い得て妙でもある。最近、医療においてもインフォームド・コンセントが大きな問題になっていることは、君たちもよく知っているだろう。医者は、患者との間にインフォームド・コンセントがあつてこそ、また医の倫理をもった専門家であることを患者に信頼されているからこそ、一般の人々が法律で禁止されている身体への侵襲や毒にもなりうる薬物の投与が許されているのである。納得した上での同意がなければ、まさに強姦魔に等しい行為をしているといっても過言ではなかろう。そして、生物医学を信奉し患者を **material** (研究材料) などと呼ぶ専門医が、構造的には強姦まがいのことを起こしがちであるということからも、言い得て妙だと感じるのである。このことは、「技術として医学ができること」という科学や工学の問題と「医療がしてもよいこと」という倫理の問題が、分裂してまとまりを失ってしまうならば、**therapist** が **the rapist** に化けてしまう危険性をはらんでいるのだという示唆に富んだ教訓にもなるような気がする。

医者になる君たちが、強姦魔にならないことを願いたいと思う。